

千葉商科大学の価値創造

～千葉商科大学統合報告書2021／2022の発行～

千葉商科大学 経営企画部長兼経営企画室長 柏木 暢子

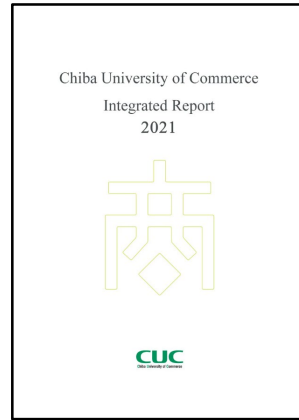
千葉商科大学 統合報告書プロジェクト2021
リーダー 小林 博子（学部事務課長補佐）

千葉商科大学 統合報告書プロジェクト2022
リーダー 麻生 茉利（学長事務室）

千葉商科大学統合報告書2021／2022



日本語



英語

2021



日本語



英語

2022

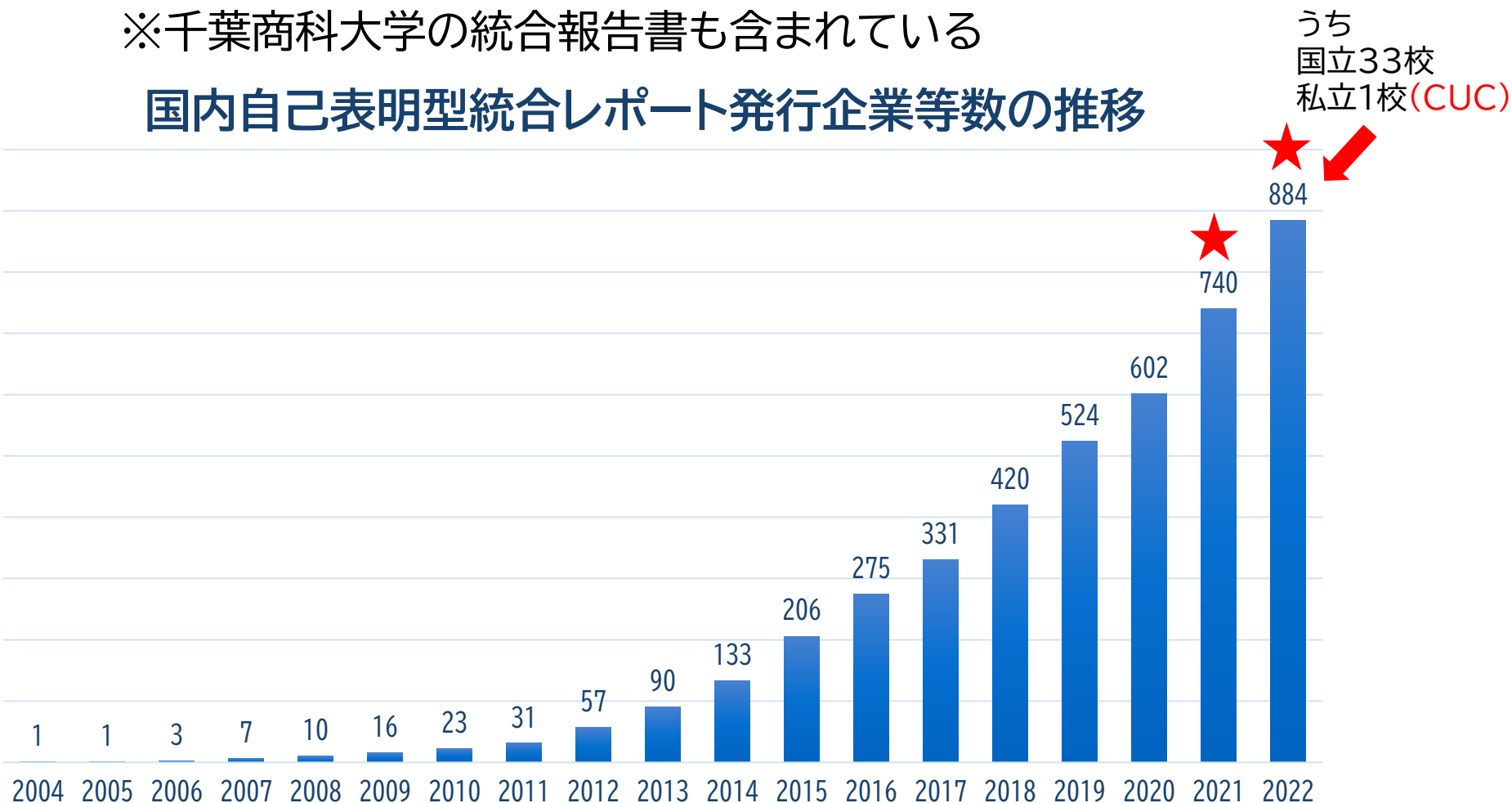
- 特色や強み・ビジョン・取り組み等の非財務情報と財務情報の観点で整理。
- 本学を包括的に理解するための統合レポート。
- 旧国際統合報告評議会(旧IIRC)の国際統合報告フレームワークを参考
- 建学の精神と教育理念のもと、本学が創立100周年に向けた将来構想「CUC Vision100」に基づいて、教育・研究に取り組み、地域社会、国際社会と共創し、社会に価値を創造するプロセスとその実績を掲載。
- 編集・制作は、事務職員の人材育成・研修の一環として、若手職員を中心としたプロジェクトチームが担う。

1. 統合報告書 発行の背景

統合報告書は、投資家や社会に向けて、財務情報と非財務情報を統合し、アピールする資料。発行企業は884社。5年で倍増。

※千葉商科大学の統合報告書も含まれている

国内自己表明型統合レポート発行企業等数の推移



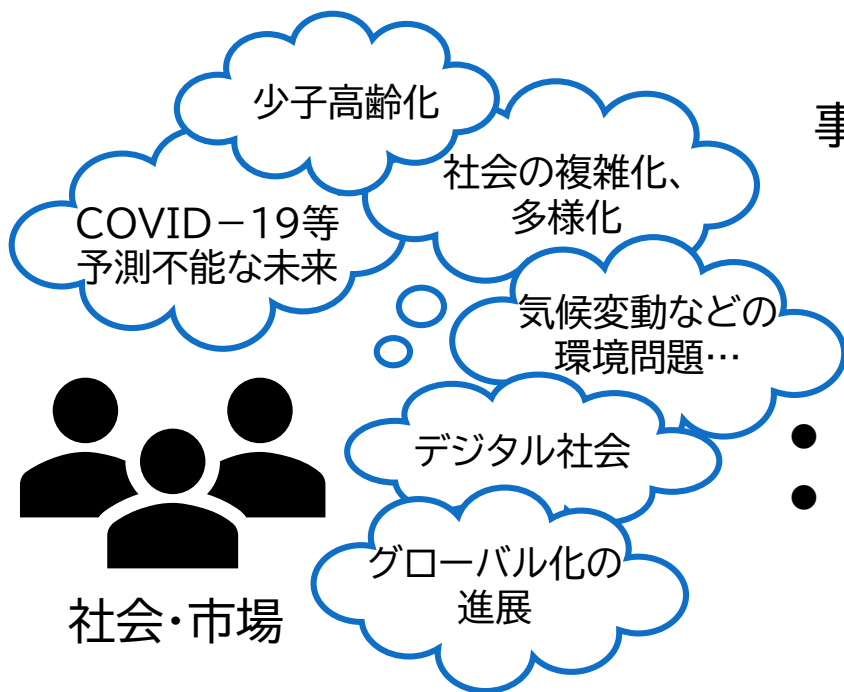
出典:企業価値レポートング・ラボ「国内自己表明型統合レポート発行企業等リスト 2022年版」P.2
http://cvrl-net.com/archive/pdf/list2022_202302.pdf

千葉商科大学は？



Trust

信頼の獲得



千葉商科大学は
事業をどう営むのか？



- 社会に生み出す価値
- 本学求められる社会的責任をどのように果たしているか

千葉商科大学

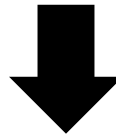
- 将来構想
- 教育
- 研究
- 財務情報
- 中期経営計画
- 危機管理

明確に伝えることによって生まれる大学への信頼を **統合報告書** に求めた

2. コミュニケーションの整理

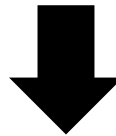
統合報告書の役割: 信頼を獲得するためのコミュニケーションツール

誰に、何を伝える？



全方位のステークホルダーに、千葉商科大学が営む事業の社会的価値を浸透させる

そのためには



- 市場から必要とされる大学の在り方
- 自学の存在意義
- 自学の創出する社会的価値
- どのように価値創出をめざすのか

明確にして開示する

制作はこの整理からスタートして全体像を考えた

その事業は何のために行っているのか、第三者が見極める軸。明確に開示されていないと、一過性の事業だと思われ、信頼に繋がらない

■ コミュニケーションの全体像



知徳豊かな持続可能社会の実現 ミッション

ビジョン

創立100周年に向けた将来構想
「CUC Vision100」

大学の事業活動

「第2期中期経営計画」
戦略目標:IST戦略

対話・取材

法人・教学関連組織・主管部署

統合報告書プロジェクト

統合報告書

OJT(人材育成)



理解・納得・浸透
紙面制作



♥ 納得、共感 → バリュー 大学への信頼

企業	市場・社会
高校	地域
大学	国・自治体

学内組織体

同窓会

教育後援会

説明責任

広報(情報発信)

価値の理解・浸透

コミュニケーションツール
目的共有・
本学の社会的価値の浸透
(対話のツール)

渉外活動

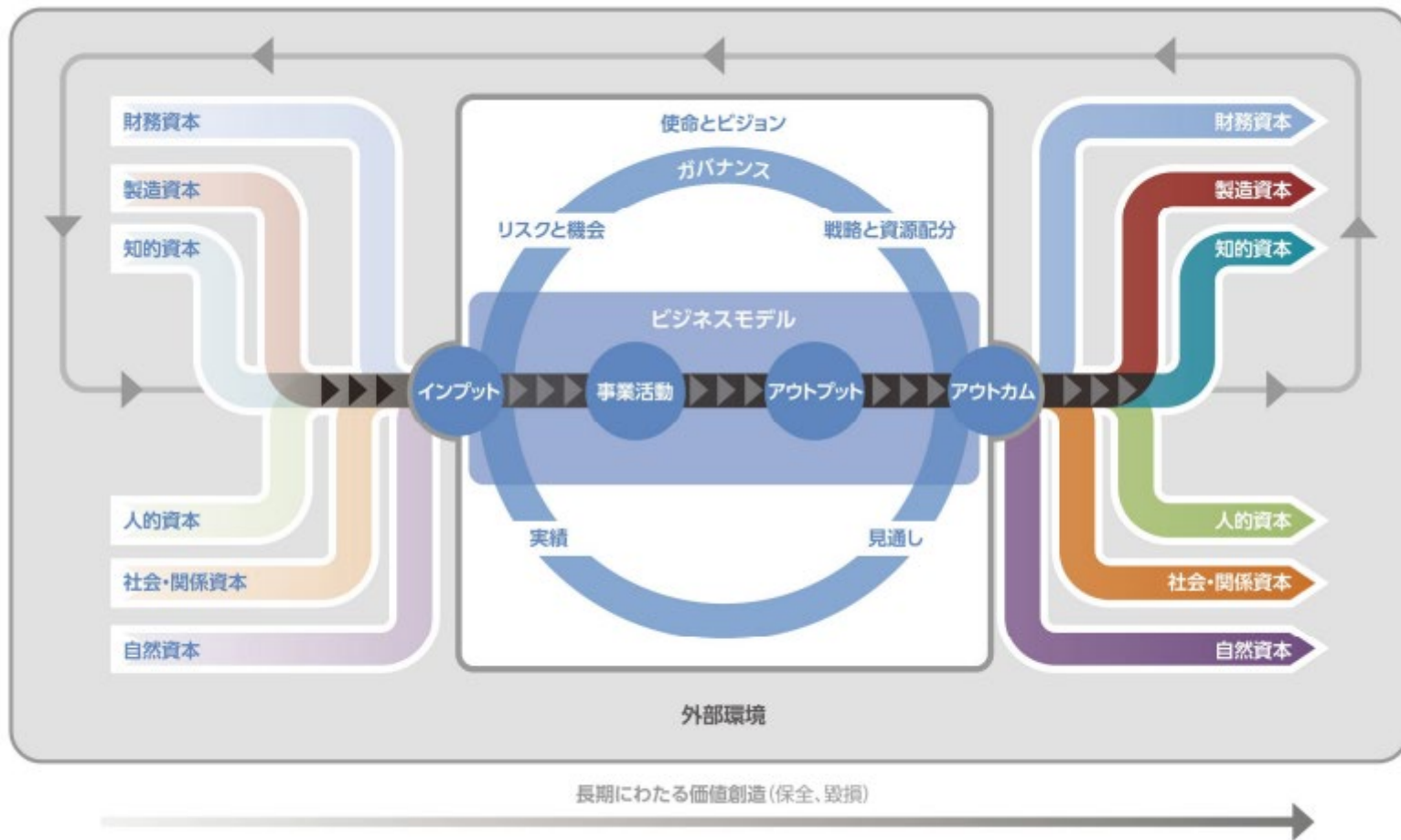
♥ 納得、共感 → バリュー 意識変容、行動変容による新たな価値の創出

教職員	学生	保護者	卒業生
-----	----	-----	-----

♥ 納得、共感 → バリュー 価値への支援、寄付、評価

取引先	連携先	地域	個人
-----	-----	----	----

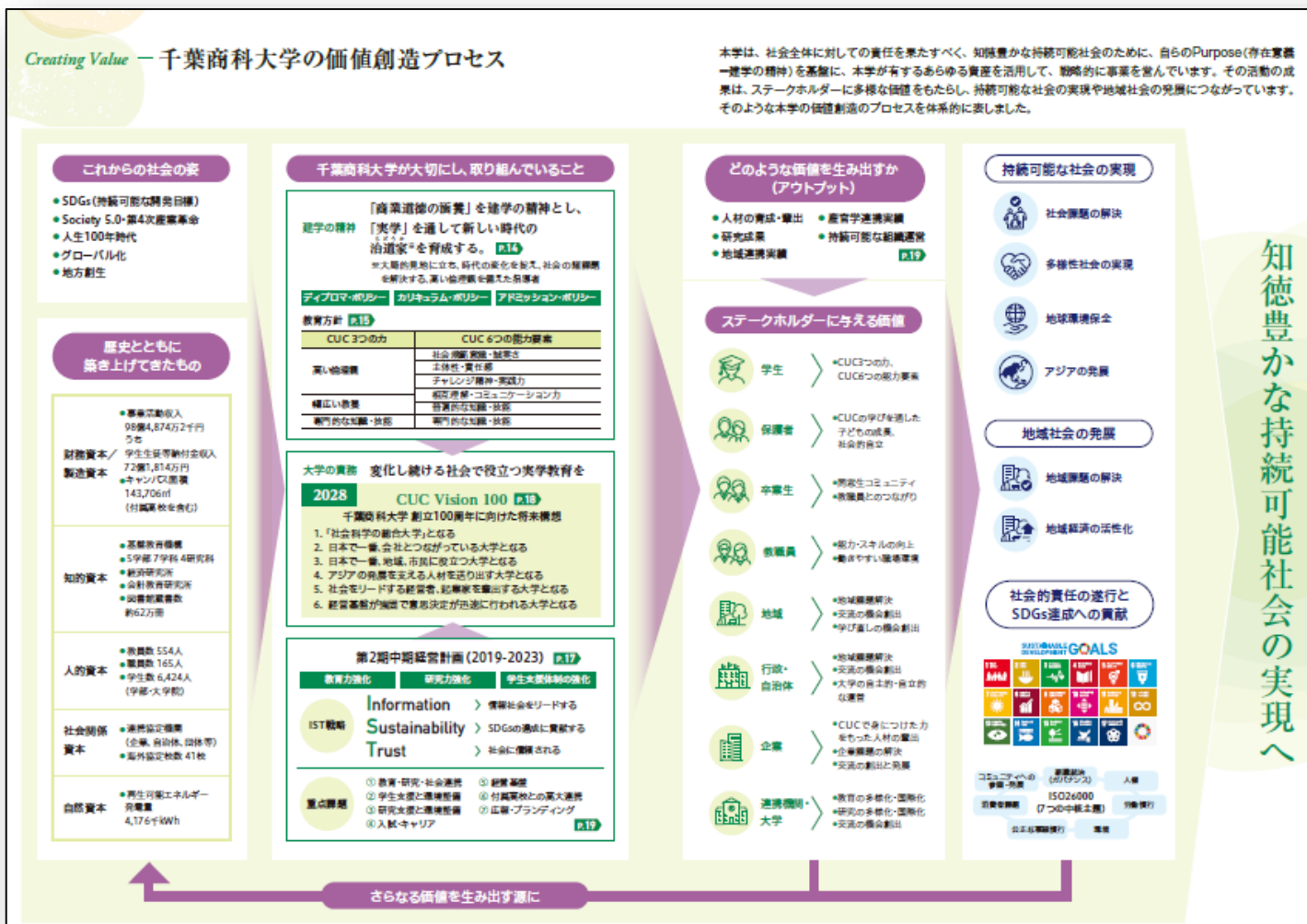
3. 価値創造プロセス



出典: IIRC「国際統報告フレームワーク日本語訳」(2014年3月)P.15

https://www.integratedreporting.org/wp-content/uploads/2015/03/International_IR_Framework_JP.pdf

千葉商科大学の価値創造プロセス



知徳豊かな持続可能な社会の実現へ

出典: 千葉商科大学統合報告書 P.10

https://www.cuc.ac.jp/about_cuc/activity/integratedreport/mstsp000002e6fo-att/integratedreport2022_02.pdf

4. 統合報告書2021について

■ プロジェクトメンバー

- ✓ 入職6年目～8年目の若手・中堅職員で構成
- ✓ 知見を深める

■ チーム目標

- ✓ プロジェクトの取組みを知識・経験を得る機会ととらえる
- ✓ チーム目標「学外、学内、自身にも気づきがあること」

■ コンセプト

- ✓ 商科大学の「商いの力」

■ 制作プロセス ◆活動期間:2020年5月～2021年9月(1年7カ月間)

時期		内容
2020年	5月～7月	・プロジェクト始動(キックオフミーティング、等) ・勉強会開催(情報収集、知識のインプット、等)
	8月～9月	・協力会社選定(コンペ、等) ・情報ヒアリング & 項目検討(学内関係者ヒアリング、等)
	10月～11月	・価値創造プロセス図検討・制作(～2021年7月) ・掲載項目の選定軸の検討
2021年	12月～1月	・掲載項目の検討・選定
	2月～3月	・協力会社への掲載内容提供(文章・写真データ、等) ・デザイン制作(表紙、全体校正、等)
	4月～7月	・トップメッセージ取材(理事長、学長) ・校正、最終確認
	8月	・完成、納品 ・全職員への配布(その他ステークホルダーへの配布は順次)
	9月	・プロジェクト終了(クロージングミーティング、等) ・活動報告用動画の制作・公開

①勉強会開催→②情報収集・協力会社選定→③掲載の選定軸・価値創造プロセス図の検討→④トップメッセージ取材→⑤校正→⑥完成→⑦学内向け報告用動画公開

掲載内容の基軸

EDUCATION 教育

女子看護科キッズチームの導入

女子看護科の学生が、地域の子どもたちと交流し、看護の魅力を伝える活動を行っています。この活動を通じて、学生はコミュニケーション能力を高め、社会貢献意識を醸成しています。

女子看護科の取り組み

女子看護科は、地域社会との連携を重視し、さまざまな取り組みを行っています。例えば、地域の福祉施設や高齢者施設を訪問し、看護実習や健康相談を行っています。また、地域の子供たちと交流し、看護の魅力を伝える活動も積極的に行っています。

女子看護科の目標

女子看護科は、地域社会に貢献し、看護の魅力を伝えることを目標としています。また、学生がコミュニケーション能力を高め、社会貢献意識を醸成することを目標としています。

EDUCATION 教育

【女子看護科】「看護の魅力を伝える、千葉県大学の特長ある教育プログラム」

看護教育支援

看護教育の質を向上させるために、さまざまな取り組みを行っています。例えば、最新の看護設備を整え、実践的な教育を行っています。また、教員の専門性を高め、最新の看護知識を伝える取り組みも積極的に行っています。

看護教育の取り組み

看護教育の質を向上させるために、さまざまな取り組みを行っています。例えば、最新の看護設備を整え、実践的な教育を行っています。また、教員の専門性を高め、最新の看護知識を伝える取り組みも積極的に行っています。

EDUCATION 教育

2019-2020年度 DINING SERVICE DESIGN Lab 開催

学生が主体的に取り組む「Dining Service Design Lab」を開催しました。この活動を通じて、学生は接客業の現場で学んだことを実践し、社会貢献意識を醸成しています。

2020年度 授業発表

学生が主体的に取り組んだ授業発表を行いました。この活動を通じて、学生はプレゼンテーション能力を高め、社会貢献意識を醸成しています。

SOCIAL CONTRIBUTION 地域・社会貢献

地域・社会貢献

地域社会に貢献し、社会貢献意識を醸成するための取り組みを行っています。例えば、地域の福祉施設や高齢者施設を訪問し、健康相談や福祉活動を行っています。また、地域の子供たちと交流し、看護の魅力を伝える活動も積極的に行っています。

地域・社会貢献の取り組み

地域社会に貢献し、社会貢献意識を醸成するための取り組みを行っています。例えば、地域の福祉施設や高齢者施設を訪問し、健康相談や福祉活動を行っています。また、地域の子供たちと交流し、看護の魅力を伝える活動も積極的に行っています。

GRADUATE SCHOOL 大学院 研究

大学院の組織改編

大学院の組織を改編し、研究の質を向上させる取り組みを行っています。例えば、最新の研究設備を整え、実践的な研究を行っています。また、教員の専門性を高め、最新の研究知識を伝える取り組みも積極的に行っています。

研究の取り組み

大学院の組織を改編し、研究の質を向上させる取り組みを行っています。例えば、最新の研究設備を整え、実践的な研究を行っています。また、教員の専門性を高め、最新の研究知識を伝える取り組みも積極的に行っています。

CONNECTION 大学から社会への接続

me RAI 後継者育成

me RAIの後継者育成プログラムを実施しました。この活動を通じて、学生は起業家精神を高め、社会貢献意識を醸成しています。

me RAI 後継者育成の取り組み

me RAIの後継者育成プログラムを実施しました。この活動を通じて、学生は起業家精神を高め、社会貢献意識を醸成しています。

- 社会に価値を創造していること
→社会に評価されていること→「メディアで取り上げられたこと」
- 「千葉商科大学らしさ・特徴」

工夫・独自性

千葉商科大学の価値創造プロセス

千葉商科大学の価値創造プロセス

インプット

千葉商科大学の特色

経営資本/ 経営者
 卒業生約14,744人
 9,518人
 15,000名
 学生支援センター
 7,050名
 キャンパス面積
 156,920㎡

知的資本
 基礎教育棟
 学生支援棟
 総合教育棟
 総合教育研究
 国際教育棟 46,200㎡

人的資本
 教員数 573人
 職員数 1,066人
 学生数 6,331人
 (学生数増減率 1.0%)

社会関係資本
 連携協定機関
 (企業、自治体、団体等)
 連携協定数 426

自然資本
 再生可能エネルギー
 発電量
 4,008,959 kWh

1 高いレベルを持った社会に役立つ実業家を養成する
 2 広く社会に実学教育を浸透させる
 3 教員は心から学生を愛し人間として尊敬しなければならない

千葉商科大学でめざすCUC 3つの力

高い倫理観 幅広い教養 専門的な知識・技能

社会的責任の遂行とSDGsの取り組み

大学としての社会的責任を遂行しています。

ISO26000 (7の中核課題)

人権の尊重の徹底
 地域社会への貢献
 環境への配慮
 労働者の権利の保障
 消費者の権利の保障
 社会正義の確保

組織
 ワークライフバランスの充実

SDGs

2019-2023 第2期中期経営計画
 戦略目標: IST戦略

① information 情報社会をリードする
 ② sustainability SDGsの達成に貢献する
 ③ trust 社会信頼を得る

重点戦略

① 教育・研究・社会連携領域
 ② 学生支援と環境整備領域
 ③ 研究開発と国際連携領域
 ④ 広域ブランド構築領域
 ⑤ 入試・キャリア領域
 ⑥ 経営基盤領域
 ⑦ 高大連携領域

2028 千葉商科大学
 創立100周年に向けた将来構想
 CUC Vision 100

1. 社会実学領域を最大とする
 2. 日本第一・社会に貢献している大学となる
 3. 日本で一番、地域、市民に愛される大学となる
 4. アジアの拠点を支える人材を供給する大学となる
 5. 社会がリードする経済圏、産業を創出する大学となる
 6. 経営基盤が確立され、意思決定が迅速に行われる大学となる

アウトプット

人材の輩出・育成

卒業生数 14,744人(学生数増減率 1.0%)
 入学志願者数 13,196人(学生数増減率 1.0%)
 外国人留学生数 69人
 学生満足度 90.3%
 就職率 95.3%
 学生の海外進出者数 265人

地域・社会に貢献

民間のコンソーシアム
 大学コンソーシアム京浜圏による
 地域社会貢献への貢献
 地域社会貢献活動
 継続的実施
 継続実施 1,834,441円
 市民の社会貢献活動 126
 「CUC地域連携フォーラム」を創設した
 市民の意見交換
 学生支援(The University DINING)
 を創設した地域貢献

SDGs達成に貢献

ESG達成率 100%
 SDGs行動憲章の策定
 デイリー・シール・環境意識
 自然エネルギー率 117.8%
 オンラインで学んだSDGsに関する情報発信

アウトカム

知費豊かな持続可能な社会の実現

人権社会が抱える課題の解決
 地域課題の健全

千葉商科大学におけるSDGs憲章とそれに即した体系・取り組み

SDGs行動憲章

千葉商科大学は、その教育研究及び事業活動において、SDGsの達成に貢献し、持続可能な社会の実現に貢献することを宣言します。

教育・研究

「高い倫理観」「幅広い教養」「専門的な知識・技能」を育む人権「尊重」の徹底に貢献する教育活動において、SDGsの達成に貢献することを宣言します。

研究

「高い倫理観」「幅広い教養」「専門的な知識・技能」を育む人権「尊重」の徹底に貢献する教育活動において、SDGsの達成に貢献することを宣言します。

SDGs in CUC

ISO26000 7つの中核課題	取り組み内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
組織統治	SDGs行動憲章の策定 ESG達成率 100% SDGs行動憲章の策定 ESG達成率 100% SDGs行動憲章の策定 ESG達成率 100%	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
学生への対応 研究の充実	SDGsに関する授業 SDGsに関する授業 SDGsに関する授業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
公正な競争	SDGsに関する授業 SDGsに関する授業 SDGsに関する授業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
人権	SDGsに関する授業 SDGsに関する授業 SDGsに関する授業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
労働慣行	SDGsに関する授業 SDGsに関する授業 SDGsに関する授業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コミュニティへの貢献・貢献	SDGsに関する授業 SDGsに関する授業 SDGsに関する授業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
環境	SDGsに関する授業 SDGsに関する授業 SDGsに関する授業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

- ① 報告内容を価値創造プロセスを軸に体系的にまとめる
- ② ISO26000の中核課題に沿った取り組みとSDGsとの関連整理

■ 次作品(2022)への引継ぎ課題

- 最新の国際統合報告フレームワーク把握
- ステークホルダーに何をどのように伝えるか合意形成して作成を進める
- 取り組むべき重要課題を特定・明示→取り組みを整理して掲載
→成果を定量的／定性的に複数年にわたって示す
- ステークホルダーとの対話→考えや期待を理解→活動に反映
→問題解決や信頼醸成を図る

5. 統合報告書2022について

■ プロジェクトメンバー(2021年に引き続き)

- ✓ 入職6年目～8年目の若手・中堅職員で構成
- ✓ 知見を深める

■ チーム目標

- ✓ (読み手が)分かりやすく(納得しやすい)・
(説明者が)説明しやすいコミュニケーションツールを作る。
→(読み手)ステークホルダー
(=将来寄付者となりうる人達=投資してくれる人達)
→(説明者)千葉商科大学(理事長、学長、教職員 等)

■ 制作コンセプト

- ✓ 「顔」が見えるコミュニケーションツール
→本学に関わる人の声をできる限り多く届ける
→情報を整理し正確に伝えること

■ 制作プロセス ◆活動期間:2021年11月～2023年3月(約1年4カ月間)

時期		内容
2021年 2022年	11月～1月	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト始動(キックオフミーティング、等) ・勉強会開催(情報収集、知識のインプット、等) ・価値創造プロセス図、掲載内容の軸、内容等の整理
2022年	2月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・協力会社選定(オリエン&コンペの準備と実施) ・局長会議等への報告
	4月～5月	<ul style="list-style-type: none"> ・協力会社とのキックオフミーティング ・価値創造プロセス図の再検討・制作 ・掲載項目の選定軸の検討 ・マテリアリティの抽出 ・掲載内容のテキスト等作成(プロジェクトメンバーにて)
	6月～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・取材、撮影(理事長、学長、topics 関係者 等)
	8月～	<ul style="list-style-type: none"> ・協力会社への掲載内容提供(文章・写真データ、等) ・デザイン制作(表紙、全体校正、等)
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語版完成、納品 ・教職員等への配布(その他ステークホルダーへの配布は順次) ・英語版制作開始(翻訳作業、校正作業等実施)～2023年2月下旬頃まで
2023年	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・英語版完成、納品 ・プロジェクト終了(クロージングミーティング実施)

掲載内容の基軸

Management Plan - 中期経営計画について

本学は、2028年の創立100周年に向けて「CUC Vision 100 千葉商科大学創立100周年に向けた将来構想」のもと、「社会が必要とする大学」「社会に信頼される大学」を目標に経営戦略を策定しています。

経営計画は、2028年の創立100周年をターゲットにした将来構想「CUC Vision100」の実現をめざして、1期5年の「中期経営計画」を推進しています。「第1期中期経営計画」では、入学の確保、雇用の確保、就職率の向上を最重要課題目標に掲げ、段階的・一体的な取り組みが実行。3次目標を掲げるまでの目標を達成。2019年度からの「第2期中期経営計画(2019-2023)」に引き継がれています。

変化する社会で役立つ実学教育を

2014 - 2018年度 第1期中期経営計画 | 2019年度 第2期中期経営計画 | 2020年度 第2期中期経営計画 | 2021年度 第2期中期経営計画 | 2022年度 第2期中期経営計画 | 2023年度 第2期中期経営計画 | 2024 - 2028年度 第3期中期経営計画

社会が必要とする大学であり続けるための改革プラン

社会から必要とされる大学であり続けるために改革プラン「IST戦略」を掲げ、教育・研究体制および財務を含む経営基盤の改革に向けて、重点課題を事業領域ごとに分けていきます。

Information

デジタルトランスフォーメーションに対応し、超スマート社会をリードする教育、教育・研究体制の改革およびサポート体制の充実等を行います。

Sustainability

教育・研究活動において環境持続可能な開発目標(SDG/Sustainable Development Goals)をリードし、持続可能な社会の構築に貢献します。

Trust

特長・強みに対して社会をリードする教育・研究を推進し、適切に成果を発信することで「学生・生徒、関係者、企業」より信頼等に獲得される大学をめざします。

IST戦略を推進することで、**教育・研究・社会連携**、**学生支援と環境整備**、**研究支援と環境整備**、**入試・キャリア**、**経営基盤**、**付属高校との高大連携**、**広報・ブランディング**の7つの重点課題に取り組む。

Priority Issues - 第2期中期経営計画の主な重点課題

現在実行している「第2期中期経営計画」は、本学の存在意義を再確認し、中期目標の再掲、大学の信頼を高め、社会の信頼を得ることを目的として、全学員が一体となって取り組むこと。役員と教職員が協議を積み重ねて策定した。

重点課題	主な取組内容	重点課題に基づく2021年度の本学重点活動	アウトプット	ステークホルダー	期するSDGゴール
SDGを推進し、世界で最も人財を輩出する大学	特色を打ち出しSDG推進を推進	P21 ICTスキル向上のための法政科設置と情報系専攻取得を支援	人財育成・働き方・研究開発	学生・教職員	SDG 4, 5, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
	持続可能な社会を志向する「学費プロファイル」実現	P24 SDG6を広くカバーする最先端の教育研究・地域貢献活動	人財育成・働き方・研究開発	学生・教職員	SDG 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
	教育の質の向上・教育の多様化	P25 超グローバルなグローバルエデュケーション・ポリシーに基づく多様・野心的な教育	人財育成・働き方・研究開発	学生・教職員	SDG 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
	食料・栄養・健康・福祉・環境・社会・文化・経済・教育・ICT	P27 超グローバルな人材育成プログラムを推進	人財育成・働き方・研究開発	学生・教職員	SDG 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
社会の発展に貢献した国際的発展の推進	アジアを中心とした世界の発展に貢献する人財の輩出	P28 超グローバルな国際文化の交流	人財育成・働き方・研究開発	学生・教職員	SDG 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
	大学教育の質・社会貢献・国際化の推進	P29 超グローバルな国際文化の交流	人財育成・働き方・研究開発	学生・教職員	SDG 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
	高度な教育・研究・社会貢献・国際化の推進	P29 超グローバルな国際文化の交流	人財育成・働き方・研究開発	学生・教職員	SDG 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
	超グローバルな国際文化の交流	P29 超グローバルな国際文化の交流	人財育成・働き方・研究開発	学生・教職員	SDG 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
ICTツールを有効活用し新しい価値の創造	多様な学生が活躍できる環境とサポート体制の充実	P31 「Topics forイノベーション」の取組み	人財育成・働き方・研究開発	学生・教職員	SDG 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
	学費削減と学生生活の確保	P33 「就職支援センター」の開設	人財育成・働き方・研究開発	学生・教職員	SDG 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
	学費削減と学生生活の確保	P33 「就職支援センター」の開設	人財育成・働き方・研究開発	学生・教職員	SDG 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17

注1: 本学は、SDG推進を推進し、世界で最も人財を輩出する大学を目標として、全学員が一体となって取り組むこと。役員と教職員が協議を積み重ねて策定した。

注2: CUC International Square (ISQ) に関する情報は、本学のウェブサイトをご覧ください。

①中期経営計画について(p. 17~18)
「CUC Vision100」の実現を目指すためのプロセスなど、全体像を把握できるように。

②第2期中期経営計画の主な重点課題(p. 19~22)
第2期中期経営計画の成果が本学のステークホルダーにどのような価値を与えるのかについて説明。(マテリアリティの抽出に該当)

工夫・独自性

Creating Value - 千葉商科大学の価値創造プロセス



2021年度事業活動 - 教育・研究・社会連携

2021年度事業活動 - 教育・研究・社会連携

2021年度は、教育・研究・社会連携の3つの柱を軸として、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。その過程で、人々の生活や社会の発展に貢献する価値を創造し、社会と共生しての創りを推進しています。

1 全学普及型対談型SDG教育プログラムの設置

SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取り組みとして、全学普及型対談型SDG教育プログラムを設置しました。このプログラムは、SDGsの達成に向けた取り組みを、対談型で実施しています。これにより、SDGsの達成に向けた取り組みを、対談型で実施しています。

2 拡大学生向け100の正課科目目標と結果を公表

2021年度は、拡大学生向け100の正課科目目標と結果を公表しました。この目標は、SDGsの達成に向けた取り組みを、対談型で実施しています。これにより、SDGsの達成に向けた取り組みを、対談型で実施しています。

3 SDGを軸とする最先端の教育・研究・社会連携

3 SDGを軸とする最先端の教育・研究・社会連携

2021年度は、SDGを軸とする最先端の教育・研究・社会連携に取り組んでいます。その過程で、人々の生活や社会の発展に貢献する価値を創造し、社会と共生しての創りを推進しています。

1 大学の最先端

大学の最先端として、SDGを軸とする最先端の教育・研究・社会連携に取り組んでいます。その過程で、人々の生活や社会の発展に貢献する価値を創造し、社会と共生しての創りを推進しています。

2 CSR研究と普及活動

CSR研究と普及活動として、SDGを軸とする最先端の教育・研究・社会連携に取り組んでいます。その過程で、人々の生活や社会の発展に貢献する価値を創造し、社会と共生しての創りを推進しています。

3 研究・実社会連携・知徳づくり(Baseline)

研究・実社会連携・知徳づくり(Baseline)として、SDGを軸とする最先端の教育・研究・社会連携に取り組んでいます。その過程で、人々の生活や社会の発展に貢献する価値を創造し、社会と共生しての創りを推進しています。

4 環境・エネルギー・Sustainability

環境・エネルギー・Sustainabilityとして、SDGを軸とする最先端の教育・研究・社会連携に取り組んでいます。その過程で、人々の生活や社会の発展に貢献する価値を創造し、社会と共生しての創りを推進しています。

Financial Information - 財務情報について

Financial Information - 財務情報について

より安定な財務体質で、持続可能な発展を遂げていきます。

2021年度は、より安定な財務体質で、持続可能な発展を遂げていきます。その過程で、人々の生活や社会の発展に貢献する価値を創造し、社会と共生しての創りを推進しています。

1 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、2020年度比で48.8%増加しました。これは、SDGを軸とする最先端の教育・研究・社会連携の取り組みによるものです。

2 第2期中経路経営計画の財務目標達成に向けての進捗

第2期中経路経営計画の財務目標達成に向けての進捗は、良好です。これは、SDGを軸とする最先端の教育・研究・社会連携の取り組みによるものです。

4 財務情報 - 新株発行が竣工

4 財務情報 - 新株発行が竣工

新株発行が竣工し、財務体質が安定しました。これは、SDGを軸とする最先端の教育・研究・社会連携の取り組みによるものです。

1 新株発行の概要

新株発行の概要は、2021年度に実施されました。これは、SDGを軸とする最先端の教育・研究・社会連携の取り組みによるものです。

2 財務体質の改善

財務体質の改善は、2021年度に実施されました。これは、SDGを軸とする最先端の教育・研究・社会連携の取り組みによるものです。

① 価値創造プロセス図(p.9~10)

- ✓ 本学の価値創造のプロセスを可視化し、体系的に展開。
- ✓ 本書全体の「目次」としての役割も担う。

② 事業活動(p.23~42)

- ✓ p. 21で提示した重点課題・重点戦略に基づく2021年度の事業活動について、これまでの経緯・成果・今後の見通し等の視点で定量的・定性的に説明。
- ✓ 各事業活動に即したtopicsを掲載。

③ 千葉商科大学について(p.45~49)

- ✓ 現在の本学の姿として財務情報(貸借対照表等)・ガバナンス情報等を踏まえ紹介。

■ 次作品(2023)への引継ぎ課題

- 統合報告書としては情報が総花的であった点
- 対象となるステークホルダーが明確化できなかった点
- マテリアリティの抽出に対して、中期経営計画における重点課題の設定背景や経緯が十分に整理しきれなかった点
- 財務情報に対する目標設定の背景と経緯が十分に把握できず、整理しきれなかった点。また、統合報告書として公表すべき情報が網羅できなかった点(経年分析の不足)

6. 今後の展開

■ ステークホルダーとの対話機会の創出

大学は企業のように投資家の存在はいない。しかし、本学を取り巻くステークホルダー(利害関係者)との関係性は、本学の競争優位を支えるため、また、本学の社会的価値を盤石なものにするためにも不可欠。発行後にコミュニケーションツールとしての機能を果たせるよう対話機会を創出する。

■ 統合思考での経営計画策定の重要性

本学には非財務情報から成る社会的価値が実に多い。非財務情報が経営に対してインパクトをもたらすことを示すには、非財務情報と本学の戦略との関連性をもたせる「統合思考」を用いた経営計画を考えることに有効性がある。

ぜひ、統合報告書をご覧ください、本学への期待やお考えをお寄せくださいますようお願いいたします